

【鳥取県】1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

超スマート社会（Society5.0）の到来によりこれまでにない新たな価値の創造と展開が可能な時代を迎えつつあるとともに、少子高齢化や人口減少、新型コロナウイルス感染症など先行き不透明で急速に変化する社会の中で、子どもたちは、課題を見出し、多様な他者と協働しながら納得解を生み出すこと等、学習指導要領で育成を目指す資質・能力の育成に向けて、「教わる授業」から「学び取る授業」へ学びの質的転換が強く求められる。そこで、GIGAスクール構想により実現した、子どもたちの1人1台端末環境をいかし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、子どもたちが自ら進んで学習する自律的な学習者となり、自由な発想でICTを活用し、見出した課題を主体的に解決する探究的な学びを推進する。また、子どもたちがICTを十分活用し、その恩恵を享受できるようにするために、教職員のICT活用指導力向上、ネットワーク環境の整備、教育データの活用、推進体制の整備、校務の改善等、ICT教育環境をソフト、ハードの両面で整備していく。（鳥取県学校教育DX推進計画参照）

2. GIGA第1期の総括

全县共通の学習用ツールを導入するとともに、小学校（小学部）1年生から高等学校（高等部）3年生まで引き継げるアカウントを活用することにより、教職員、児童生徒とも同じ環境で学びを継続することでICT活用が進んだ。また、オンライン、クラウドを活用した多様な学びに1人1台端末を活用する姿が見られるとともに、オンラインアンケート等による業務の改善が見られるようになった。教員による活用から、児童生徒が、自らの課題解決のために主体的・自律的に端末を活用する学校が増えてきた一方、課題として、教員間、学校間のICT活用、ICT活用指導力に差がみられることから、引き続き、情報活用能力等、児童生徒が自ら学ぶための「学び方」を身に付け、発揮できるよう教員の授業観の転換を図る研修の実施や、取組の共有化、外部人材の活用等が必要である。

ネットワークアセスメント等の実施により、通信の改善は図られているが、まだ十分とは言えず、現状の把握や阻害要因の検証改善を進めるとともに、今後の通信量増大が想定されることから、安定した高速大容量通信環境に向けてネットワークの確実な整備及び運用を図る必要がある。

（鳥取県学校教育DX推進計画 参照）

3. 1人1台端末の利活用方策

これからの社会に対応する資質・能力を育成するために、基盤となる情報活用能力を育成するとともに、「自ら学び取る授業」の実現に向けた探究的な学びに取り組み、児童生徒が学びのツールとしてクラウド活用することにより、子どもたち一人一人が目標に向かって、情報を収集しながら自分のペースで学習したり、共有機能やオンライン会議等を用いて、他者の考えを参照したりしながら自ら学んでいくような授業（個別最適な学び、協働的な学び）の推進を図る。更に持ち帰りを含め、学校と家庭とが連続した学びとなるよう日常的な端末活用を推進していく。また、ICTの特性を最大限活用し、個に応じた指導の充実を図るとともに、不登校や病気療養等により特別な支援が必要な子どもたち、発達の支援が必要な子どもたち等に対する学習機会の確保、多様な学びの機会の提供に向けた取り組みを推進する。

ICT利活用の推進に向けて、管理職のマネジメント力の向上、情報化推進リーダー・サブリーダーの育成等、役割に応じた研修を実施し、校内の推進体制を構築するとともに、児童生徒主体の探究的な学びが推進できる教員の養成に向けて、教員による活用から児童生徒自身のICT活用へのステップアップ及び新たなスキルを習得できるような研修機会の充実を図る。更に外部人材を活用することで、ICTを活用した社会とつながる学びを実現するとともに、学びの質の向上を図る。

1人1台端末環境において「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、円滑に学べるよう、今後の通信量の増大に向けて、次世代ネットワークによる安定した高速大容量通信環境の確実な確保を図るとともに、1人1台端末の整備・更新を確実に実施する。（鳥取県学校教育DX推進計画 参照）